



2025年7月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年3月13日

上場取引所 東

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社

コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 上原 祐香 TEL 03-3502-2020
コーポレートコミュニケーション本部長

半期報告書提出予定日 2025年3月13日 配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年7月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年8月1日～2025年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年7月期中間期	8,528	△19.9	977	-	970	-	581	-
2024年7月期中間期	10,649	△25.3	△205	-	△199	-	△1,685	-

(注) 包括利益 2025年7月期中間期 580百万円 (-%) 2024年7月期中間期 △1,686百万円 (-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年7月期中間期	66.67	66.64
2024年7月期中間期	△193.25	-

(注) 2024年7月期中間期における潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失のため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年7月期中間期	10,958	6,709	61.2
2024年7月期	11,002	6,124	55.7

(参考) 自己資本 2025年7月期中間期 6,705百万円 2024年7月期 6,124百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年7月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年7月期	-	0.00	-	-	-
2025年7月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年7月期の連結業績予想（2024年8月1日～2025年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	△14.0	150	7.9	130	△19.4	130	—	14.91

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P.9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更に関する注記）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年7月期中間期	8,720,534株	2024年7月期	8,720,534株
② 期末自己株式数	2025年7月期中間期	155株	2024年7月期	155株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年7月期中間期	8,720,379株	2024年7月期中間期	8,720,379株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(会計方針の変更に関する注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、一部に足踏みもみられるものの、緩やかな回復が続きました。賃金の伸びが拡大し個人消費は緩やかに持ち直しましたが、物価高で家計の節約志向が強まるなか、食料品など非耐久財の消費には伸び悩みの動きもみられました。国内化粧品市場についても、景気が回復する中で緩やかな成長が続いていますが、成長のスピードには鈍化の動きもみられています。

こうした状況の下、当社グループは、厳しい事業環境下においても着実に利益を創出できる筋肉質な企業体質の確立に向け、ブランドマネジメントと各チャネルの協働強化によりブランド価値の再構築を図るとともに、適正なコストマネジメントに努めています。

当中間連結会計期間における売上高は、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が順調に伸長したものの、当社で行っているアンチエイジング事業の売上が減収となり、全体では8,528百万円(前年同期比19.9%減)となりました。一方、営業利益は、アンチエイジング事業の減収により売上総利益が減少したものの、通信販売チャネルにおいて、新規獲得の広告効率が十分に改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費を抑制したこと及び、事業規模に合わせ固定費を削減し、適切なコストマネジメントを実行したこと等から、977百万円(前年同期は営業損失205百万円)となり、経常利益は970百万円(前年同期は経常損失199百万円)、親会社株主に帰属する中間純利益は581百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失1,685百万円)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

(単位：百万円)

	2024年7月期 中間連結会計期間	2025年7月期 中間連結会計期間	前年同期比 (%)
売上高	9,750	7,012	△28.1
営業利益又は営業損失(△)	△360	794	—

売上高

アンチエイジング事業の売上高は、7,012百万円(前年同期比28.1%減)となりました。

チャネル別の売上高は、通信販売・卸売販売ともに前年同期を下回りました。

通信販売は、前期より取り組んでいる新規獲得効率の徹底を継続するとともに、顧客構造を強化するCRM施策として会員コミュニティ施策の拡充等に努めていますが、新規獲得の競争環境が厳しい状況が継続したことや、CRM施策を通じた既存顧客の活性化の効果が上がるにはまだ時間がかかることから、売上の減少傾向が続いています。

卸売販売は、ブランド価値を訴求する新たなコミュニケーション・新プロモーションとのタイアップ施策の推進や卸売先企業との連携の深化を通じて成長力の獲得を目指しています。当中間連結会計期間においては、「デュオ」ブランドのリニューアル新発売、「カナデル」ブランドの新テレビCMと連動した施策や、「クレイエンス」ブランドの新色カラートリートメントの発売に合わせた店頭での訴求強化に努めましたが、店頭での競争激化の影響により売上は減少しました。

ブランド別の状況は次の通りです。

「デュオ」ブランドは、2025年2月にブランド誕生から15周年を迎えることを機に、「ザ クレンジングバーム」シリーズ5種をリニューアル新発売いたします。その第一弾として2025年1月より「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」の販売を開始しました。リニューアル発売に併せて新CM「バームがもう一度生まれ変わる」篇の放映を開始し、合わせて販売促進キャンペーンを展開するなど、リニューアルした「デュオ」の訴求を図っています。

「カナデル」ブランドは、2024年9月にシリーズ累計出荷個数が900万個を超え、肌の悩みが変化する大人世代の高機能エイジングケアブランドとして売上を伸ばしてきました。しかしながら、足許ではオールインワン化粧品市場の競争激化が継続し、売上の減少傾向が続いています。昨年10月からは新ブランドキャラクターによるテレビCM、SNS施策、売場訴求を通じて新規顧客の獲得に努めています。また、オールインワン前のファーストステップで肌悩みケアをサポートする新商品「カナデル チューニングローション[医薬部外品]」を2025年4月から新たに投入し、肌実感満足度の向上を通じ継続愛用者の拡大を目指します。

「クレイエンス」ブランドは、2024年10月にカラートリートメントの新色「ローズブラウン」を発売し、ブランドのラインナップを拡充しました。カラートリートメント・カテゴリーにおけるお客様の選択肢を増やし、よりお客様に選ばれる総合ヘアケアブランドとしての育成を図っています。

この他、インナーケア事業のサプリメント「シントー リポソーム ビタミンC」や高濃度ビタミンCスキンケア「C+mania(シーマニア)」等のテストマーケティングを継続しております。また、ファスト美容医療発想を叶える新たなスキンケアブランド「Lalaskin(ララスキン)」を2025年4月より一部のバラエティショップ、ドラッグストア、GMS、ECモールで先行発売、9月より全国発売するための準備を進めています。

営業利益

営業利益は、減収により売上総利益が減少したものの、通信販売チャネルにおいて、新規獲得の広告効率が十分に改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費を抑制したこと及び、事業規模に合わせ固定費を削減し、適切なコストマネジメントを実行したこと等から大幅に改善し、794百万円（前年同期は営業損失360百万円）となりました。

リカバリー事業

（単位：百万円）

	2024年7月期 中間連結会計期間	2025年7月期 中間連結会計期間	前年同期比 （%）
売上高	899	1,515	68.6
営業利益	151	183	21.3

売上高

売上高は、テレビCMやデジタルマーケティングの施策を積極的に展開した効果もあり大幅に伸長し、半期の最高売上を達成する1,515百万円（前年同期比68.6%増）となりました。

営業利益

積極的な広告投資を行ったことから広告宣伝費が増加しましたが、売上高の増加に伴い営業利益も着実に伸長し183百万円（前年同期比21.3%増）となりました。

（2）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して43百万円減少し、10,958百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して9百万円減少し、8,872百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加548百万円、売掛金の減少454百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して34百万円減少し、2,086百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少20百万円、無形固定資産の減少19百万円及び投資その他の資産の増加5百万円によるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して628百万円減少し、4,249百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、436百万円減少し、3,322百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少408百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、191百万円減少し、926百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少129百万円によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して584百万円増加し、6,709百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益581百万円によるものであります。

その結果、自己資本比率は61.2%となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、5,301百万円（前連結会計年度末比547百万円増）となりました。

また、当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動により獲得した資金は、1,390百万円（前年同期は38百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前中間純利益967百万円、売上債権の減少454百万円、支出の主な内訳は、契約損失引当金の減少281百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動により使用した資金は、178百万円(前年同期は745百万円の使用)となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出19百万円、無形固定資産の取得による支出94百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動により使用した資金は、665百万円(前年同期は29百万円の使用)となりました。支出の主な内訳は、短期借入金の減少408百万円、長期借入金の返済による支出243百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年7月期の連結業績予想につきましては、2025年3月13日付「2025年7月期第2四半期(中間期)業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」で公表したとおり、2024年9月12日に公表した予想から変更はありません。業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに開示する予定です。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年7月31日)	当中間連結会計期間 (2025年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,760	5,308
売掛金	1,727	1,272
製品	1,112	1,215
原材料及び貯蔵品	474	502
その他	807	572
流動資産合計	8,882	8,872
固定資産		
有形固定資産	610	590
無形固定資産		
のれん	352	331
その他	646	648
無形固定資産合計	999	979
投資その他の資産	510	515
固定資産合計	2,120	2,086
資産合計	11,002	10,958
負債の部		
流動負債		
買掛金	204	273
短期借入金	1,008	600
1年内返済予定の長期借入金	385	271
1年内償還予定の社債	26	26
未払金	871	719
未払法人税等	23	369
賞与引当金	81	73
契約損失引当金	308	80
その他	848	907
流動負債合計	3,759	3,322
固定負債		
社債	43	30
長期借入金	980	851
契約損失引当金	52	-
資産除去債務	6	14
その他	34	30
固定負債合計	1,118	926
負債合計	4,877	4,249
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,351	1,351
資本剰余金	1,351	1,351
利益剰余金	3,404	3,986
自己株式	△1	△1
株主資本合計	6,106	6,688
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	17	17
その他の包括利益累計額合計	17	17
新株予約権	-	4
純資産合計	6,124	6,709
負債純資産合計	11,002	10,958

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2023年8月1日 至 2024年1月31日）	当中間連結会計期間 （自 2024年8月1日 至 2025年1月31日）
売上高	10,649	8,528
売上原価	2,160	1,751
売上総利益	8,489	6,776
販売費及び一般管理費	8,694	5,798
営業利益又は営業損失（△）	△205	977
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	19	1
雑収入	2	3
営業外収益合計	22	5
営業外費用		
支払利息	11	12
雑損失	4	0
営業外費用合計	15	12
経常利益又は経常損失（△）	△199	970
特別損失		
減損損失	492	-
契約損失	147	-
契約損失引当金繰入額	250	-
その他	18	2
特別損失合計	908	2
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失（△）	△1,108	967
法人税等	577	343
過年度法人税等	-	43
中間純利益又は中間純損失（△）	△1,685	581
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△1,685	581

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年1月31日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△1,685	581
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△0	△0
その他の包括利益合計	△0	△0
中間包括利益	△1,686	580
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△1,686	580

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△1,108	967
減価償却費	82	123
のれん償却額	20	20
固定資産除却損	16	2
減損損失	492	-
関係会社株式評価損	2	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	△52
契約損失引当金の増減額(△は減少)	250	△281
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	11	12
売上債権の増減額(△は増加)	193	454
棚卸資産の増減額(△は増加)	236	△131
仕入債務の増減額(△は減少)	△12	69
未払金の増減額(△は減少)	△87	△138
未払費用の増減額(△は減少)	128	△66
前払費用の増減額(△は増加)	23	△106
その他	△277	374
小計	△27	1,248
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△10	△12
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	75	197
過年度法人税等の支払額	-	△43
営業活動によるキャッシュ・フロー	38	1,390
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	4	△0
有形固定資産の取得による支出	△599	△19
無形固定資産の取得による支出	△151	△94
貸付金の回収による収入	1	1
保証金の差入による支出	△0	△0
その他	-	△64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△745	△178
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	69	△408
長期借入金の返済による支出	△85	△243
社債の償還による支出	△13	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△29	△665
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△720	547
現金及び現金同等物の期首残高	4,659	4,753
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,938	5,301

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（会計方針の変更に関する注記）

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益又は税引前中間純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2023年8月1日 至 2024年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アンチ エイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,750	899	10,649	—	10,649
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,750	899	10,649	—	10,649
セグメント利益又は損失 (△)	△360	151	△209	3	△205

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額3百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「アンチエイジング事業」セグメントにおいて、一部のソフトウェア仮勘定の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は492百万円です。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間（自 2024年8月1日 至 2025年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	アンチ エイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,012	1,515	8,528	-	8,528
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,012	1,515	8,528	-	8,528
セグメント利益	794	183	977	-	977

(注) セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。